



福島とつながる種まきプロジェクトネットワーク(たねまきネット)

たねまき通信 No.14

2017年8月発行

〒186-0004 東京都国立市中 3-11-6 スペースF 気付 編集責任者：遠藤良子

Tel&Fax：042-573-4010 E-mail：spacef@ac.auone-net.jp

郵便振替口座：00190-1-708341

(正会員1口3,000円/年、賛助会員1口10,000円)

名義：福島とつながる種まきプロジェクト



「ようこそ～！」第4回福島キッズ「リフレッシュ&エコキャンプ@恵泉」

～ 目次 ～

- P2～4 写真で綴る 8月5～7日「第4回 福島キッズ リフレッシュ&エコキャンプ」
- P5 総会を終えて—今年、5つの目標 (狩野 強)
〈お誘い〉 9月9～10日「原発避難の今を視る」視察
- P6～9 集会報告 “被災地の今を聴く
—出合いと共生 福島・東京 子どもたちの未来を考える”
市村高志さん「今は、帰れません」
鹿目久美さん「母子避難者として生きる」 (小川ひろみ)
- P9 お薦めの本
伊藤浩志『復興ストレス 失われゆく被災の言葉』 (梶山ななえ)
- P10～11 お盆のいわきで能を体験—亡くなった方への鎮魂 (中西景子)
新聞記事より「人間国宝が能指導—古民家活用し体験教室」(「福島民友」)
- P12 活動日誌・編集後記

★別刷り〈お誘い〉

2017/9/9～10(土・日) “原発避難の今を視る—市村高志さんと行く富岡視察”

【写真で綴る】 第4回福島キッズリフレッシュ&エコキャンプ

8月5～7日（土～月）、多摩市にある恵泉女学園大学において、4回目となる「福島キッズキャンプ」を行いました。主催の実行委員会は、恵泉・澤登早苗教授はじめ教職員と学生、多摩市民、自然派くらぶ生協と私たち種まきネットの約50人。いわき市三和町から24名、同市湯本から8名、東京から8名の計40人の子どもたちを迎えました。遊び、交流し、学ぶといった恵泉が得意とするプログラムを通して「3.11」後の新しい社会を切り拓いていく上で大きな力になると期待されます。写真で子どもたちの様子をご覧ください。



▲3つの花と3つのハーブ。6つのグループに子どもは分けられ、グループごとに3日間、行動を共にした。



☒和太鼓ワークショップ@小体育館。
到着後、最初のプログラム。夕食までの3時間、最終的に太鼓打ちを披露できるようになるまでみっちり稽古。到着時には緊張の面持ちだった子どもから、大きな声も出て、屈託のない笑顔がはじけ始めた。

▶「草花クイズ」@メインガーデン。草花を観察し、名前や特徴を記録する。恵泉女学園大学の学生たちが各プログラムのリーダーを積極的につとめた。



▶「満喫！たま田んぼ」生きもの調べ 福島の子にリードされて東京の子も田んぼに足を入れる！「カエルもシオカラトンボもたくさんいるっ！」の驚きの声。



▲前回同様、小林重一さん宅にお邪魔して「里山の暮らし」を伺う。早朝からおおぜいのボランティアさんが入り、かまどでご飯を炊いておにぎりをつくり、夏野菜の煮物やスイカをふるまってくださった。



▲「収穫！恵泉産野菜」取りたての野菜をピザのトッピングにふんだんに使う。極旨ピザ。ソーセージばかり乗せてる男の子に、「ピーマンやトマトも乗せなきゃね」と女の子。



▶グループ毎に3日間の思い出を模造紙に描いて発表。種まきネット事務局長の遠藤さんも審査員のひとり。どの班にも、ユニークな賞が与えられた。

